

科目分類	助産学基礎科目		開講時期	1年	前期
授業科目	周産期医学Ⅲ（胎児・新生児学）				
選択／必修	必修	単位数（時間数）	1単位	15時間	授業形態 講義
担当教員	小豆澤 敬幸				
メールアドレス	教務学生課を窓口とする	オフィスアワー	教務学生課を窓口とする		

授業目的	<p>新生児期から乳児期の助産ケアを実践するうえでの基本的知識として、1) 出生後に影響する胎児の成長・発達、2) 新生児の子宮外への生理的適応過程、3) 新生児に起こりやすい症候や疾患の病態と診断・治療、4) 低出生体重児・早産児に起こりやすい疾患の病態と診断治療、5) 乳幼児の健康診査 について理解する。</p>
授業概要	<p>新生児期から乳児期の助産ケアを実践する上での必要な病態生理について基礎的知識を学ぶ。また、異常による新生児の疾患の病態と診断・治療、乳幼児の発育・発達について学ぶ。</p>
授業内容	<p>第1回 新生児の身体的・生理的特徴と適応 ：新生児の定義と特徴、新生児の生理とその変化（呼吸・循環・体温）</p> <p>第2回 新生児の身体的・生理的特徴と適応 ：新生児の生理とその変化 （肝機能、消化器系、水・電解質バランスと腎機能）</p> <p>第3回 新生児の身体的・生理的特徴と適応 ：新生児の生理とその変化 （免疫、内分泌機能、水・電解質バランスと腎機能）</p> <p>第4回 ハイリスク新生児 ：出生後に影響する胎児の・成長・発達</p> <p>第5回 新生児に起こりやすい症候や疾患（内科疾患）</p> <p>第6回 新生児に起こりやすい症候や疾患（外科疾患・整形外科疾患）</p> <p>第7回 低出生体重児・早産児の特徴と疾患 ：定義・分類・頻度、生理的特徴、特有な病態・治療・予後</p> <p>第8回 乳児の発育・発達と健康診査</p>
教科書 参考書等	<p>教科書：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ 新生児期・乳幼児期 第6版 医学書院</p> <p>参考書：仁志田博司 「新生児学入門」第5版、医学書院</p>
成績評価 基準・方法	筆記試験 100%
履修要件	特になし

留意事項
その他

母性看護学・小児看護学においての既習の知識を確認・整理して授業に臨んで下さい。

テキストの内容を予習したうえで授業に臨み、授業後の復習は必ず行って下さい。
本科目を修得していないと、助産学実習ⅠⅡⅢⅣは履修できません。